

平成27年度 岐阜県立多治見北高等学校

「生徒及び保護者を対象とするアンケート」実施結果と分析

1 「生徒及び保護者などを対象とするアンケート」実施概要

- (1) 生徒アンケート（全員対象） 7月16日（木）～23日（木）で実施
- (2) 学校評議員アンケート（5名） 7月16日（木）～30日（木）で実施
- (3) 保護者アンケート（全員対象） 7月16日（木）～23日（木）で実施
- (4) 回答数：生徒746名、保護者487名、学校評議員5名

2 アンケートへの対応

- (1) 多治見北高等学校ホームページに掲載する
- (2) 教職員で検討し、学校運営に役立てる
- (3) 学校評議員会に提出する
- (4) 「自己評価」及び「学校関係者評価」の資料として活用する

3 結果の分析・評価

アンケートの有効な回答は、生徒は約94%、保護者は約62%であった。今年度からマークシート方式に変更したが、マーク方法の間違い等により読み取れない回答が保護者の回答に目立った。

アンケート項目は昨年度と同一なので、すべての項目で比較分析ができる。

全項目に対する肯定的な意見の割合は、平均すると生徒79%（昨年81%、2年前78%）、保護者等80%（昨年80%、2年前74%）となり、昨年と同様に肯定的な回答が多く、概ね本校の教育活動を理解していただいていると判断できる。しかし詳しく見ていくと、生徒・保護者ともに2年生、1年生と年度を追う毎に評価が低下していく傾向が見られる。

(1) 生徒アンケートより

- ・ 生徒アンケートでは、肯定的な回答（AorB）が平均79%と昨年より2%低下した。肯定的な回答が80%を越える項目は昨年より4項目減り、41項目中19項目であった。
- ・ 肯定的な回答が大幅に増加した項目は無いが、「生徒会活動」「学校祭」「安全・衛生指導」「交通マナー」などの項目で、肯定的な意見が若干増加した。
- ・ 以下の項目では、肯定的な回答が昨年度より5%以上減少した。

項目 3「本校では、一人ひとりの良さや可能性を伸ばすことに努めている。」 -6 -5

項目 17「本校では、生徒のことをよく理解していて、一人一人に合った生徒指導をしている。」

項目 19「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」 -6

項目 20「本校では、体罰の防止に努めている。」 -5

項目 33「本校では、進路希望達成のための活動を支援し、それにふさわしい家庭学習時間を確保させ、学力の向上を図っている。」 -5 -7

項目 37「学校での学習時間で十分実力が身につく、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」

項目 41「学校は、授業公開や体験入学、学校訪問を積極的に受け入れ、「開かれた学校」づくりに努めている。」 -5

いじめや体罰など、昨年度重点的に取り組み、肯定的な評価が大幅に増加した項目での減少が目立つ。また、学習塾に頼る傾向が高まりつつあることは学習調査の結果にも表れている。

- 次に示すのは他の項目と比較して評価が低く、C、Dの比較的多い項目である。
 - 項目 13「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」67%
 - 項目 36「毎日の家庭学習時間は最低でも3時間は確保されている。」66% ↓50%
 - 項目 37「学校での学習活動で十分実力が身につく、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」
 特に項目 37 に関しては昨年度と比較して7%減少したが、1年生の47%が大きく平均を下げている。家庭での学習時間の減少傾向とともに、塾での学習に頼る傾向が強まっているように思われる。「自主、自立、自学」を校訓とする本校としては、家庭での学習に一人でじっくり取り組める生徒の育成に力を入れる必要がある。
- 全体的には、昨年と比べると評価が下がったように見えるが、例年と比べると悪い評価ではない。昨年大変良い評価が出た反動で評価が下がった項目が多かったように思われる。しかし、反省すべき点は反省し、改善する努力を続けなければならない。

(2) 保護者・学校評議員を対象とするアンケートより

- 保護者アンケートでは、肯定的な回答（AorB）が平均80%と昨年と同様の高い評価をいただいている。中でも肯定的な回答が80%を越えるものは、昨年より4項目増加し、43項目中27項目であった。
- 以下の項目では、否定的な回答が減少し、肯定的な回答が昨年度より5%以上増加している。
 - 項目 21「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」+6
 - 項目 30 (84%→88%) も含めて、リーディングプロジェクト等の取り組みが保護者に評価されたのではないかと推測される。
- 以下の項目では、肯定的な回答が昨年度より5%以上減少した。
 - 項目 11「学校は、ホームページ等を用いて、保護者（地域）に速やかに伝えている。」-5
 - 項目 29「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」-6
 - 項目 38「毎日の家庭学習時間は最低でも3時間は確保されている。」-5
 ホームページによる広報やメール配信による危機対応など、昨年大きく評価を高めた項目が、その反動で減少する傾向が見られた。
- 次に示すのは他の項目と比較して評価が低く、C、Dの比較的多い項目である。
 - 項目 9「学校は、保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応してくれる。」68%
 - 項目 19「学校は、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」66%
 - 項目 24「学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」66%
 - 項目 34「学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。」64%
 - 項目 38「毎日の家庭学習時間は最低でも3時間は確保されている。」61% ↓44%
 - 項目 39「学校での学習活動で十分実力が身につく、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」
 - 項目 41「本校生徒は、はきはきした挨拶をし、交通マナーを遵守して登下校している。」66%
 評価の低い項目はほぼ例年と同じである。今後は学校の取り組みが保護者に理解されるように、様々な機会をとらえて取り組みの様子を伝えていく努力が大切である。
- 全体としては、保護者からは良い評価をいただいている。これが一時的なものにならないように、今後も継続して改善に努めることが大切である。また、学校の取り組みが保護者にも伝わるように、情報提供や広報活動に努めることが大切である。